

演劇をとおして地域の文化・芸術活動の質的向上と活性化を

劇団ひびき

活動の目的

劇団創立55年の節目の公演にふさわしい、しっかりした作品、本格的な舞台に挑戦する。観客の皆様「演劇」の面白さを味わってもらえる舞台を提供する。同時に、55周年企画として、ロビーイベントを開催し、劇団ひびきのこれまでの活動を知っていただき、これから先も長く愛される劇団になる。

活動の内容及び経過

10月14日15日、岡山県天神山文化プラザにおいて、劇団ひびき創立55周年記念・第95回公演として、永井愛作「日暮町風土記」を上演。

2016年12月「恋とグアテマラ」公演をその第1弾として、「感謝」「挑戦」「進化」をテーマに掲げた“55企画”はスタートした。第2弾「ひびき劇祭」（2017年4月）の後、第3弾である今回の記念公演に向けての本格的な稽古は始まった。2時間30分を超える長い芝居を仕上げるのには、相当の時間と労力を要し、さまざまな困難にも直面したが、劇団員全員のチームワークで乗り切ることができた。「劇団」のメリット、劇団で芝居を創ることの意味も、そこにあると思う。なお、今回、自前で会場を4日間借りて、本格的な舞台セットを組むことができたのは、ひとえに助成金のおかげである。

舞台づくりと並行して、“55企画”ロビーイベントの準備にも取り組んだ。当日は、舞台上演の前と休憩時間、ホール前（ホワイエ）において、過去の公演記録の展示・スライドショー、メッセージボード「ひび木」の掲示、ドリンクサービスを実施した。

活動の成果・効果

入場者総数は、招待も含めて291名（14日 137名、15日 154名）。近年にない多くの観客に来ていただいた。年齢層も高校生から70歳以上の高齢者まで幅広く、久しぶりに生の舞台を観るという方、劇団ひびきの舞台は初めてというお客さんも多かった。

本（永井作品）の力も大きかったと思うが、たくさんの方から「楽しめた」「感動した」「すばらしい舞台だった」という声をいただいた。とりわけ、「役者の個性が生きていた」「役者の心の動きが手にとるようにわかる」「自然な演技に引き込まれた」という感想は、私たちの目指す芝居・演技が評価してもらえたという意味でもうれしく、大いに励まされた。また、初めて観た方からの「お芝居とひびきのファンになりました」「演劇にふれることができてよかった」という言葉は、何よりありがたく貴重である。ロビー



企画も好評だった。

展示・スライドショーを準備するにあたって、劇団の歴史を振り返る機会を得た。演劇に関わった先輩諸氏の労苦と熱意、そして観客の皆様を支えられてきたことに対する敬意と感謝の気持ちを新たにしたい。同時に、受け継いでいくこと、これからも良質の舞台をつくり続けていくこと。その責任と使命を痛感した。

今後の課題と問題点

“55企画”のテーマにも掲げた「挑戦」「進化」を目指す。より質の高い舞台を創ることと同時に、演劇の新しい可能性を追求していくこと。そのために、「劇団」のメリットを生かし、地道に、かつ前向きに活動を継続する。基礎練習を疎かにせず、劇団員個々の力量のレベルアップを図る。ここ十数年は、既成の作品のみを上演してきたが、オリジナル（の作品創作）にも挑戦する。そのことによって、観劇人口を増やし、さらに広く演劇に興味・関心を持ってもらうこと。

劇団活動について言えば、学生を含む劇団員は年々入れ替わり、増減を繰り返している。劇団員が少なくなれば、稽古場の維持費等の負担が増し、財政事情はたちまち悪化するという不安を常に抱えている。上演作品を選定し、上演計画を立てることに苦慮する場合も少なからずある。初心者を含む若いメンバーを育てることも大きな課題である。

- 代表者：居郷毅 ●所在地：岡山市北区京橋町
- TEL：080-3055-5155
- E-MAIL：gekidanhibiki@hotmail.com
- URL：http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Oak/1272/
- 設立年：1962年 ●メンバー数：14名